

職員からのメッセージ

菊川 大輔（診療部 リハビリテーション科） [2018年採用]

1. 現在の私の仕事



日産スタジアム内にある、横浜市スポーツ医科学センターのクリニックで、スポーツ選手のリハビリテーションを行うことが私の仕事です。クリニックのリハビリテーション科には、小学生からプロアスリートまで多くのスポーツ選手が治療に訪れます。選手の怪我の治療、再発予防、パフォーマンスの向上のために理学療法士の専門性を活かしてサポートしています。

また、当センターは日産スタジアムを本拠地とするプロサッカーチーム、横浜 F・マリノスと覚書を交わしており、試合の開催日にはトレーナーとして派遣され、選手のリハビリテーションや練習前後のケアを行っています。その他、横浜市内で開催される各種スポーツイベント(横浜シーサイドトライアスロン・横浜マラソンなど)の会場に出張し、選手の身体機能の相談やトレーニングのアドバイスも行なっています。

2. 仕事のやりがい

- i** 横浜市スポーツ医科学センターのクリニックでは、日々様々なスポーツ選手が数多く受診し、他では得られない貴重な治療経験が得られます。また、クリニック業務に加え、プロスポーツチームや国際大会等でもサポートをさせて頂く機会があり、それらの多様なフィールドで対応した選手に「良いパフォーマンスが発揮できた…」と報告を頂く際に強いやりがいを感じます。



近所に公園がないから、道具がないから、一緒にやる人が周りにいないから—
いざスポーツをしようと思っても、気軽に取り組める環境があるとは限りません。そうした状況を少しでも改善し、スポーツと人との距離を縮めたいと思い、この会社を選びました。

小谷 康敬（トライアスロン推進部 トライアスロン推進課） [2015年採用]

1. 現在の私の仕事

- i** トライアスロン推進課では「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」、「横浜シーサイドトライアスロン大会」2つの大会を開催しています。トライアスロン競技にはスイム・バイク・ランの3種目があります。それぞれの種目を実施するにあたって、コースに係る地元調整、交通規制及び競技団体調整、メディカル、警備体制の構築業務が私の仕事です。世界へ横浜の魅力を発信し、選手が満足するにはどのコースを走るのがいいか。怪我や事故を防ぐためにはどういった救護体制が必要かなど、よりよい方法を検討しながら決定する必要があります。また、そういった課題を解決するためには、競技団体やドクター、警察からメディアにいたるまで、世界中の様々なプロフェッショナル達と一緒に考えていく必要があります。組織の一員として、互いに協力しながら選手にとって、観戦者にとって、サポートしてくれる人にとってよりよい大会を目指して、日々業務に取り組んでいます。

2. 仕事のやりがい

- i** 世界トライアスロンシリーズ横浜大会には、オリンピック・パラリンピック選手をはじめ、世界最高峰の選手たちが横浜に集結し、トップを目指します。そこには、選手だけでなく、多くの世界中のファンも注目しています。そうした世界中の注目を集める大会を開催する組織の一員として、みんなで一緒になって大会を作り上げていくことができることに大きなやりがいを感じています。



スポーツセンターを利用したことがありますか？

体を動かす楽しさ、スポーツの魅力を伝えられることがやりがいです。

新たな風を求めています！！

北川 清夏（地域スポーツ振興部 鶴見スポーツセンター所長）[2006年採用]

1. 現在の私の仕事

- i** スポーツセンターの施設管理・運営、地域との連携が私の仕事です。地域に愛されるスポーツセンターを目指し、教室やイベントの企画運営や健康づくりのサポートを行っています。スポーツセンターの外で行う仕事もあり、区内の保育園・小学校・地域ケアプラザ等に出向き、体力向上を目指した活動やスポーツの普及・振興のお手伝い、区民祭りなど地域イベントへの協力や、地域で活躍されている指導者の方々に向けた研修も行っています。

2. 仕事のやりがい

- i** スポーツセンターの外で行う仕事で出会った方々が、初めてスポーツセンターをご利用いただいた時はとても嬉しかったです。また、自分自身が今まで経験した運動やスポーツの楽しさを伝えること、サポートしていくというやりがいを持って、職場の仲間とチームワークを発揮し仕事に取り組んでいます。



近 佑治（マラソン推進部 担当課長）[2008年採用]



1. これまでのキャリア

- i** 小さいころから体を動かすことが好きで、様々なスポーツを行ってきました。生活の中にスポーツがあることが当たり前で、大学ではスポーツを活用したまちづくりについて学んできました。卒業後には、主に取組んできた野球を通して諸外国での経験を積み、同時にその環境におけるスポーツ振興を見てきました。帰国後にスポーツで培った経験を活かし、自分自身を成長させてくれたスポーツの仕事に就けたらと思い、念願のスポーツにかかわる現職に就くことができました。入社後は、学生時代に学んできた地域スポーツの振興からはじまり、スポーツ施設管理や子どもから高齢者までの運動指導を行い、平成28年度よりマラソン推進部担当課長となり現在に至ります。

2. 仕事のやりがい

- i** 横浜市最大規模のスポーツイベントである『横浜マラソン』を成功させる—それが私の今の役割です。主な業務は、大会の企画はもちろんのこと、大会までのイベント企画や大会にご協力いただくスポンサーの獲得、運営に欠かせないボランティアの募集・育成などです。今までの業務は、地域の皆様と協力してまちの活性化を図ることやスポーツをする環境を提供することでしたが、現在は、そんな過去の経験を総合した大きな事業を担っています。一口にスポーツの仕事とは言え、当協会の業務は多岐にわたります。スポーツという力を活かして、それぞれのセクションで与えられた役割をこなすことで、地域の皆様やお客様が笑顔に、そして健康になっていく様子を肌で感じてきました。そして同時にたくさんの方の『ありがとう』を頂いてきました。この様子や一言にやりがいを感じ、スポーツで元気な横浜を目指し、スポーツがもっともっと身近になるように取り組んでいます。



福川 摩乙（事業部 事業課長） [2008年採用]



1. これまでのキャリア

- i** 大学では、経営学部で企業会計や公会計、法人の経営やリーダーシップ論について学びました。また、学科外の活動として野外活動のボランティアを始め、当協会が管理する市内外の野外活動施設で活動しました。平成 18 年 6 月に嘱託職員として入社し、経理課に配属され主に出納や会計システムを担当しました。入社 3 年目に固有職員採用試験に合格し、引き続き経理課で予算・決算業務を中心に担当し 9 年間経理業務に携わりました。平成 27 年 4 月に新横浜公園事業部担当課長となり、新たに施設管理や公園運営・イベント運営を経験しました。平成 28 年 4 月に三ツ沢公園担当課長、平成 29 年 4 月に公園管理局事業部事業課長となり現在に至ります。

2. 仕事のやりがい

- i** 日本一の収容人数を誇る「日産スタジアム(横浜国際総合競技場)」は、横浜 F・マリノスのホームスタジアムであり、2002 年には FIFA ワールドカップ TM の決勝戦が行われました。そして 2019 年にはラグビーワールドカップ TM の決勝戦会場、2020 年には東京オリンピックのサッカー会場となることが決まっています。サッカー・ラグビーの W 杯、オリンピックという世界三大スポーツの祭典を開催する「スポーツの聖地」で、世界中の方が注目する大会に携わることができるのは、一生に一度あるかないかのとても貴重な経験であり、幸せなことであるとともに大きな責任も感じています。また、歴史に残る数々の大会・イベントを施設管理者として支える一方で、新横浜公園全体を使って行う自転車レースや駅伝大会を主催し、多くの方にスポーツや自然を楽しんでいただく機会の提供も行っています。スポーツに携わる全ての人の感動と笑顔、それが私の仕事のやりがいです。



主事：須藤 俊哉（施設経営部 赤城林間学園長）



1. 現在の私の仕事

横浜市少年自然の家・赤城林間学園の管理・運営、地元群馬県昭和村との連携が私の仕事です。横浜市民はもちろんのこと、地元にお住まいの方や野外活動に興味のある皆さんが、団体に限らず、家族・グループでも気軽に利用していただける施設を目指し、地元の様々なイベントの実行委員として参加・協力を行いながら、教室やイベントの企画に取り組んでいます。また、野外活動のみならず、スポーツや文化活動の拠点として、たくさんの方にご利用いただけるよう、広く P R を行っています。

2. 仕事のやりがい

横浜市立小中学校の体験学習/自然教室で学園を訪れる子どもたちが、こんにやく作りや手打ちうどん作りなどの体験活動や、星空観察など楽しそうに取り組んでいる姿を見ると、とてもうれしくなります。また、学園職員には集団生活を通して子どもたちがルールを守り、仲間と協力しあいながら行う総合的な学習をサポートするという重要な役割もあります。日頃から職場の仲間といろいろなアイデアを出し合い、学園を利用するすべての皆さんが快適で安全に活動していただけるよう創意工夫する楽しさとやりがいをもって仕事に取り組んでいます。



技士：山口 義彦（技術監理部 緑管理課長）



1. これまでのキャリア

大学では、造園学科で都市公園や庭園の設計・維持管理について学びました。大学卒業後、ゴルフ場を運営する企業に就職し、芝生や樹木などの管理責任者であるグリーンキーパーとして10年間業務に携わりました。この経験を活かして、更にキャリアアップしたいと思い、2002FIFA ワールドカップTMの決勝戦会場である日産スタジアムの芝生管理を始めとした新横浜公園の平成11年度技士募集試験に応募して横浜市体育協会に転職しました。新横浜公園では、日産スタジアムの芝生を始め、公園内の樹木類の維持管理、環境学習を行い、施設係、事業課を経て平成20年1月に緑管理課長となり現在に至ります。

2. 現在の仕事

私は公園管理局技術監理部緑管理課長として新横浜公園及び三ツ沢公園の「スポーツターフ」を中心とした芝生や樹木、花などの管理や、公園内で市民のみなさんが行う環境活動のお手伝いなどを総合的にマネージメントしています。植物は、私たちと同じように生きているので日々変化します。特に競技用の芝生「スポーツターフ」に関しては、サッカーやラグビーなど激しいスポーツの選手の足元を支えるデリケートな環境での生育が求められるため、試合に向けて最適な状態となるように、毎日定期的な巡回による観察を行っています。その結果を踏まえて、的確な管理作業について職場内で検討し、管理作業計画を作成のうえ、作業が確実に行われているかを確認しながら点検、指導することをライフワークとしています。また、芝生の状況や作業状況などを記録し、報告書として残すことも日々の仕事として重要な作業です。

3. 仕事のやりがい

新横浜公園は横浜市内最大の運動公園で、その中心には、日本一の収容人数を誇り、2002FIFA ワールドカップTMやラグビーワールドカップ2019TMの決勝戦会場である日産スタジアムがあります。Jリーグの1チームである横浜F・マリノスのホームスタジアムでもある日産スタジアムは、日本代表戦や国際大会にも使用されます。一流選手から市民まで幅広いニーズに応えられるよう常にベストな状態に整えるため、芝生の観察がライフワークです。すべては使う人のため・選手のために—これが我々の目標であり、感動の舞台を支えているという想いがやりがいとなっています。